

2017年2月5日(日)朝10:10

主の降誕節第7、映画会等

2月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**第7の封印について、**  
**口に甘く、腹に苦い巻物**

聖書:ヨハネの黙示録 10章8～11節

＜口語訳＞

新約聖書396頁

ヨハネの黙示録 10章8～11節

＜新共同訳＞

新約聖書464頁

ヨハネの黙示録 10章8～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書487頁

ヨハネの黙示10章8～11節＜塚本訳＞

新約聖書799頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章1～3節は、強い天使が、神の恵みの啓示と神の審判を告げ、4～7節は、同じ天使の創造主への誓いの箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録10章8～11節は、天使の手から受け取って巻物をヨハネが食べた箇所。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第10章8～11節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録10章8～11節；ヨハネは、天からの声を聴いて、天よりの強い御使いの手から巻物を受取って食べました。

◇8～11節；塚本訳◆ヨハネ巻き物を食う

「8 すると(前に)私が天から(出るのを)聞いた声が、再び私に語って言うのを聞いた、「行って、海と地の上に立っている天使の手にある開いた巻物を取れ。」

9 そこで私は天使の所に行って、その小さな巻物を私に(渡して)くれるように言うた。すると彼が私に言う、「(さあ、)これを取って食ってしまえ。お前の腹は苦くなるが、しかし口には蜜のように甘いであろう。」

10 私は小さい巻物を天使の手から受け取った。そしてそれを食ってしまった。果たして(それは)口には蜜のように甘くあったが、それを食った時、私の腹は苦くなった。

11 すると(その天使と七つの雷が)私に言う、「お前はもう一度多くの民と国と国語と王達とについて預言せねばならぬ！」と、ヨハネは神の天の御使いの手から巻物を受取って食べ、口に甘く、腹に苦く感じた。

◇ 8～9節；ヨハネは、4節で聞いた「天からの声」が、「行って、海と地の上に立っている天使の手にある開いた巻き物を取れ」と語り、「天使の所に行って、その小さな巻き物を私に(渡して)くれるように言い」ます、すると、「天の強い御使い」は、「(さあ、)これを取って食ってしまえ。お前の腹は苦くなるが、しかし口には蜜のように甘いであろう」と、語りかけたのです。

⇒この箇所での大事なことは、①ヨハネが、「天からの声」の声に聴き従ったことと、②「天の御使い」が、「これを取って食ってしまえ。お前の腹は苦くなるが、しかし口には蜜のように甘い」と、解説してくれたことです。

⇒「巻物」は、神のみことばで、ヨハネは自ら受取り、天の御使いも、ヨハネの決断を理解し、「巻物」の関する情報を啓示したのです。

⇒「**七つの雷のことば**」を書きとめることを禁じられたのは、「**神の領域**」に入り込み過ぎることへの警告でしたが、この「**巻物**」は、今日で言えば、「**神のみことばである聖書**」で、**神**に聴き従うべき「**神の啓示の書**」なのです。

⇒**IN師**は、「少しずつ積み重ねて御言葉を学ぶ、自分で選び、それを実行する時、大人のクリスチャンとしての歩み方ができるわけです。それを私たちに神様は下さろうとしているのです」(240頁)と、説き明かして下さっています。

◇**10～11節**；ヨハネは、「**巻物を食べてしまった。果たして(それは)口には蜜のように甘くあったが、それを食べた時、私の腹は苦くなった**」、「(その天使と七つの雷が)私に言う」、「**お前はもう一度多くの民と国と国語と王達とについて預言せねばならぬ!**」と、出来事を記録しています。

⇒「**天の御使い**」は、「**巻物を食べた時の苦さ**」を強調しましたが、ヨハネは、「**食べた時の感触を記録しています**」し、「**七つの雷**」が、「**多くの民と国と国語と王達とに預言せよ**」と命じる。

⇒KT師も語っておられますように、神は、ヨハネを**預言者**ともされたのです。

⇒「**巻物**」が**甘い**という**預言のことば**、**神の福音の恵みのことば**は、**旧約聖書**でも**エゼキエル**が**味わい**、**苦さ**を**実感**しつつ語っています(エゼキエル書3:3等)ので、時代を超えた「**神の福音使信**」です。

⇒「**甘さ**」は、**神の福音の恵み・愛**ですが、「**苦さ**」は、「**神の審判**」も含めて、「**神のみことば**」に**聴き従う者**が、**味わう試練・困難**で、ヨハネへの使信には、「**殉教の死の試練**」も、含まれていたのです。

⇒IN師は、**マタイ福音書4章3～4節**の**悪魔の誘惑**に対して**主イエス様**が、「**人はパンだけで生きるのではなく神の口から出る一つ一つのことばによる**」と、ヨハネ福音書6章51、53、54節の「**51 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である**」。53 **イエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その**

血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。」と、また、ヨハネ福音書1章1節の「**初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。**」を引用して、「イエス様御自身が神様の御言葉。即ち、神様の御意志を人間に伝達するために来られた、神様の御言葉。そして、そのイエス様がわたしの肉を食べなさい、わたしの血を飲みなさい、そうしたら命がここにあると、こうおっしゃったのです。」と語っておられます。

⇒**IN師**はまた、食べることは、エネルギーを蓄えることで、**・・もう一つの基準、もう一つのエネルギー源なるものを私たちは、聖書のお言葉の中から頂くわけ**です。このエネルギー源で物事を判断すると、世の判断と違ってくるのですとも、語っておられます。

⇒「**巻物・聖書のみことば**」に聴き従うことは、**神の恵み、感謝、讚美、喜び**だけでなく、**楽でない**こともあります。が、**力と慰めも見出したい**。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讃美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章1～3節は、強い天使が、神の恵みの啓示と神の審判を告げ、4～7節は、同じ天使の創造主への誓いの箇所です。

◇ヨハネの黙示録10章8～11節は、天使の手から受け取って巻物をヨハネが食べた箇所です。

⇒神の裁きは、「神に聴き従うことを拒む者」、偶像礼拝とその結果の不品行の罪に対して及びます。

⇒併し、神の圧倒的な恵みによって「神の子」と呼ばれ、「額に神の印を受けた者」と認められ、「今あるは神の恵み」と、神に感謝し、讚美できることを喜び合いたいとねがいます。

⇒神の恵みは、「強い天使」が、「雲、虹、太陽」で示し、神の厳しい裁きの中でも、不変であることを身をもって証言しました。

⇒神の教会も、神礼拝・執成しの祈りを通して、神の恵み、「雲、虹、太陽」を語りつづけたいと願います。

⇒「天使の誓いのことば」は、ヨハネへの祝福のことばでした。

⇒ヨハネは、自ら求め、巻物を受取り、天の御使いのことばに聴き従い、巻物・神のみことばを食べ、それが口に甘く、腹に苦いと実感しました。みことばの生活化が大事なのです。